

ニュースレター



こども政策担当、共生社会担当、女性活躍担当、孤独・孤立対策担当、内閣府特命担当大臣（少子化対策男女共同参画）の小倉まさのぶ大臣が湯河原町にお越しになり、こども・若者政策について地元の牧島かれん衆議院議員と共に意見交換させて頂きました。

新春対談

地方創生、
こども子育て
のこと！



衆議院議員

湯河原町長

こども政策担当大臣

牧島かれん × 富田幸宏 × 小倉まさのぶ

▶地方創生▶▶▶▶▶

富田：小倉大臣、湯河原へようこそ。湯河原には来られたことはありますか。

小倉：久しぶりですが、湯河原は鉄道でも車でも東京からアクセスしやすく魅力的な観光地だと思っています。自民党ではデジタル田園都市国家構想推進委員会の事務局長を務めていましたので、湯河原の施策にも注目してきました。富田町長時代に、ハードもソフトも含めていくつもの事業が進められましたね。

富田：湯河原のことを大臣にも知って頂いて嬉しく思います。コロナは観光立町である湯河原にはダメージではありましたが「東京や都心部に暮らし続ける必要はない」という方々も増えてきて、湯河原は移住先として検討されるようになりました。またテレワークやワーケーションに適した宿泊施設やスペースも増えてきました。「万葉公園湯河原惣湯」は1階にカフェや観光ステーションを、2階に観光協会、旅館協同組合など事務所とコワーキングスペース、会議室を作りました。公園全体ではもちろんFree Wi-Fiがご利用いただけます。

かれん：私が伺った時にはちょうど町外からのお客さまが集まって会議をされていました。観光客のお客さま層が、ご家族連れから、おひとりさま、会社関係、連泊、とさまざまに広がっているのを感じます。観光産業はすその広い産業です。農産物も旅館などで地産地消として活用されますし、お土産は地元の商店で買っていただけます。観光地のイメージアップに向けて観光庁のメニューも活用しなが

ら改修やリノベーションも進められているところです。万葉公園は公募設置管理制度（Park-PFI）として整備しましたね。実は私はデジタル大臣と同時にPPP/PFIの担当大臣でもあったのです。湯河原は私が大臣に就任する前から既に「全国の手本となるモデル」とされていました。

富田：民間の活力を使うことも大事だと思っています。税収を上げるためにも、町内の産業を活性化させ、経済を回すことを重視してきました。子育て支援や高齢者福祉を拡充させるためにも、原資となる予算、歳入が必要です。町民の力強い未来のために「稼げる町」であり続ける様努力していきます。

かれん：「見えるアトリエ」にも思い入れがあります。地方創生の拠点として町長と共に実現させて頂きました。町立湯河原美術館に「平松礼二見えるアトリエ」をオープン、ミュージアムカフェも併設されました。町長も同席下さいましたが、フランス大使館で平松画伯はフランスから芸術文化勲章シュバリエを受けられました。私が敬愛する『銀河鉄道999』の松本零士先生もシュバリエを受賞されていますが、芸術文化の分野で日本を代表される方々に送られている賞です。フランスで尊敬されている日本人が湯河原におられるというのは誇りですね。また湯河原町町村合併60周年の記念事業として「狂言の宴とプロジェクションマッピングとの融合」も開催されたのを覚えています。伝統・歴史・文化と梅の宴など自然環境の融合は温泉と共に湯河原の魅力だと思います。町長は「初心を忘れず愚直に町政運営に努めている」と日頃よりおっしゃっています。「初心忘るべからず」という表現には「経験を積めば『型』や『形』が

出来上がっていくが惰性に陥ってはいけない」という意味があるそうです。常に新しいことに挑戦していく姿勢を町長に期待し、私もその心意気を大事にしたいと思います。

富田：町長としての4期を振り返りますと「1期目は行革」を「2期目は町の活性化への計画内容」を「3期目は官民連携または町単独での諸事業が皆さんに目に見えて来た経緯」を「4期目はコロナ禍で町独自の支援策や隣に病院がある安全安心な立地環境でのワクチン集団接種会場の利用」を説明してきたつもりです。大型ホテルの開業や町立美術館カフェの整備で宿泊観光客数が約20%増加するなど、数字・データでも成果が出たと思っています。

▶こども・子育て▶▶▶▶▶

かれん：富田町長はこども子育て支援も初当選以来ずっと取り組んで来られましたね。第3子以降の子供への支援として「誕生給付金」「育成給付金」「入学給付金」の設定をされたのは平成20年、適用対象は町長としての初年度の平成19年度からだだったと聞いています。



小倉：「観光施策」「行財政改革」そして「子育て支援」を3本柱として厳しい財政状況の中「ゆがわり元気回復プラン」を進めて来られたんですね。「マタニティ・サポート119事業」というのはユニークなものなので、少しお話を聞かせていただけますか。

富田：子育て支援の一環として「妊婦専用救急車を導入したマタニティ・サポート119事業」というのを作りました。町内には産科病院がありません。産科の新規設立というのは正直ハードルが高いものです。県内でも、年間約700件のお産を担ってきた秦野赤十字病院でも分娩が8年間休止している状態です。慢性的な産科医不足は全国的な問題になっています。手をこまねているわけにもいかないので、妊婦さんをかかりつけの産科病院まで迅速に搬送できる様にと考えたのが「妊婦専用救急車」です。出産直前の兆候を感じた妊婦さんの安心に繋がればとの思いで、「総合戦略会議」や「ふれあいの集い」で寄せられた声を実現させた一例です。また、コロナ禍でも町民お一人8,000円(3,000円+5,000円)の「暮らしの応援クーポン」を配布しましたが、併せて国の補正予算によるコロナ対策はこども支援にあてさせて頂きました。新型コロナウイルス感染症対策は総事業費5億円を超えました。全町民向けを含む暮らしの応援・安全は約3億5000万円、こども子育て支援は約1億2600万円の事業費になります。



かれん：学校給食費の補助もされたそうですね。

富田：2020年6月15日から12月25日までの町立小中学校の給食費は全額町が補助しました。その他、修学旅行のキャンセル料を全額負担、高校生以下に1万円のクーポン配布、通学定期への2万円補助、新生児やひとり親家庭への補助などを行いました。

小倉：パソコンの整備の方はどうですか。

富田：臨時休業への対応も含めて小中学生にはひとり一台遠隔操作できるLTE対応のパソコンを整備し、全ての児童・生徒の自宅での学習をサポートしました。GIGAスクール構想を更に推進していきたいと思っています。

小倉：外遊び等こども達がのびのびと遊べる場を整えることも大事で、自然豊かな湯河原はその環境も整備されている印象です。

富田：2年前に幕山公園で開催された「ポールスターフェスティバル」ではこども達や若者の音楽やダンスのパフォーマンスを拝見しました。ウイズ・コロナ時代に、練習の成果を発表する場をこれからは増やしていきたいものです。いよいよ「こども家庭庁」が4月1日にスタートですね。小倉大臣も準備が佳境に入ってきていることと思います。こども家庭庁の目標をお話いただけますか。

小倉：こどもが自分らしく健やかに幸せな状態で大人になることができるように、社会全体でこども施策に取り組んでいきます。これまで大人が中心になっていた政策作りに、こども、若者の視点をとり入れていきます。困っているこどもや若者へのサポートをするのも、こども家庭庁の役割になります。「こどもまんなか社会」では、こども、若者が主役です。



富田：「こどもまんなか社会」私も賛同します。実は障害のある方が小田原市内の養護学校に通学していたご苦労を聞いたのです。神奈川県とは「養護学校を湯河原に作る」ために何年にもわたり折衝してきました。障害のある方にとっては長距離通学は辛いはず。なんとかしたい、という思い一心で一度神奈川県が「計画見直し」を伝えて来た時には「約束が違う」と副知事に直談判しました。旧湯河原中学校跡地には、養護学校、たんぼぼ作業所、中央区民会館、体育館、病院、防災コミュニティセンターが収まるかたちで、多年の努力が結実しました。

小倉：こども子育て政策の充実には国と自治体が車の両輪となるのが不可欠と考えています。富田町長のこども子育て政策の実績を聞き、心強く思っています。ぜひこれからも他の市町村のお手本となってください。

(次回後編につづく)

出来上がっていくが惰性に陥ってはいけない」という意味があるそうです。常に新しいことに挑戦していく姿勢を町長に期待し、私もその心意気を大事にしたいと思います。

富田：町長としての4期を振り返りますと「1期目は行革」を「2期目は町の活性化への計画内容」を「3期目は官民連携または町単独での諸事業が皆さんに目に見えて来た経緯」を「4期目はコロナ禍で町独自の支援策や隣に病院がある安全安心な立地環境でのワクチン集団接種会場の利用」を説明してきたつもりです。大型ホテルの開業や町立美術館カフェの整備で宿泊観光客数が約20%増加するなど、数字・データでも成果が出たと思っています。

▶**こども・子育て**▶▶▶▶▶

かれん：富田町長はこども子育て支援も初当選以来ずっと取り組んで来られましたね。第3子以降の子供への支援として「誕生給付金」「育成給付金」「入学給付金」の設定をされたのは平成20年、適用対象は町長としての初年度の平成19年度からだったと聞いています。



小倉：「観光施策」「行財政改革」そして「子育て支援」を3本柱として厳しい財政状況の中「ゆがわら元気回復プラン」を進めて来られたんですね。「マタニティ・サポート119事業」というのはユニークなものなので、少しお話を聞かせていただけますか。

富田：子育て支援の一環として「妊婦専用救急車を導入したマタニティ・サポート119事業」というのを作りました。町内には産科病院がありません。産科の新規設立というのは正直ハードルが高いものです。県内でも、年間約700件のお産を担ってきた秦野赤十字病院でも分娩が8年間休止している状態です。慢性的な産科医不足は全国的な問題になっています。手をこまねているわけにもいかないので、妊婦さんをかかりつけの産科病院まで迅速に搬送できる様にと考えたのが「妊婦専用救急車」です。出産直前の兆候を感じた妊婦さんの安心に繋がればとの思いで、「総合戦略会議」や「ふれあいの集い」で寄せられた声を実現させた一例です。また、コロナ禍でも町民お一人8,000円



(3,000円+5,000円)の「暮らしの応援クーポン」を配布しましたが、併せて国の補正予算によるコロナ対策はこども支援にあてさせていただきました。新型コロナウイルス感染症対策は総事業費5億円を超えました。全町民向けを含む暮らしの応援・安全は約3億5000万円、こども子育て支援は約1億2600万円の事業費になります。

かれん：学校給食費の補助もされたそうですね。

富田：2020年6月15日から12月25日までの町立小中学校の給食費は全額町が補助しました。その他、修学旅行のキャンセル料を全額負担、高校生以下に1万円のクーポン配布、通学定期への2万円補助、新生児やひとり親家庭への補助などを行いました。

小倉：パソコンの整備の方はどうですか。

富田：臨時休業への対応も含めて小中学生にはひとり一台遠隔操作できるLTE対応のパソコンを整備し、全ての児童・生徒の自宅での学習をサポートしました。GIGAスクール構想を更に推進していきたいと思っています。

小倉：外遊び等こども達がのびのびと遊べる場を整えることも大事で、自然豊かな湯河原はその環境も整備されている印象です。

富田：2年前に幕山公園で開催された「ポールスターフェスティバル」ではこども達や若者の音楽やダンスのパフォーマンスを拝見しました。ウィズ・コロナ時代に、練習の成果を発表する場をこれからは増やしていきたいものです。いよいよ「こども家庭庁」が4月1日にスタートですね。小倉大臣も準備が佳境に入ってきていることと思います。こども家庭庁の目標をお話いただけますか。

小倉：こどもが自分らしく健やかに幸せな状態で大人になることができるように、社会全体でこども施策に取り組んでいきます。これまで大人が中心になっていた政策作りに、こども、若者の視点をとり入れていきます。困っているこどもや若者へのサポートをするのも、こども家庭庁の役割になります。「こどもまんなか社会」では、こども、若者が主役です。



富田：「こどもまんなか社会」私も賛同します。実は障害のある方が小田原市内の養護学校に通学していたご苦労を聞いたのです。神奈川県とは「養護学校を湯河原に作る」ために何年にもわたり折衝してきました。障害のある方にとっては長距離通学は辛いはず。なんとかしたい、という思い一心で一度神奈川県が「計画見直し」を伝えて来た時には「約束が違う」と副知事に直談判しました。旧湯河原中学校跡地には、養護学校、たんぽぽ作業所、中央区民会館、体育館、病院、防災コミュニティセンターが収まるかたちで、多年の努力が結実しました。

小倉：こども子育て政策の充実には国と自治体が車の両輪となることが不可欠と考えています。富田町長のこども子育て政策の実績を聞き、心強く思っています。ぜひこれからも他の市町村のお手本となってください。

(次回後編につづく)

★住所・氏名等に変更がありましたらお手数ですが、事務局までお知らせ下さい。

ニュースレター



こども政策担当、共生社会担当、女性活躍担当、孤独・孤立対策担当、内閣府特命担当大臣(少子化対策男女共同参画)の小倉まさのぶ大臣が湯河原町にお越しになり、こども・若者政策について地元の牧島かれん衆議院議員と共に意見交換させていただきました。



▶**地方創生**▶▶▶▶▶

富田：小倉大臣、湯河原へようこそ。湯河原には来られたことはありますか。

小倉：久しぶりですが、湯河原は鉄道でも車でも東京からアクセスしやすく魅力的な観光地だと思っています。自民党ではデジタル田園都市国家構想推進委員会の事務局長を務めていましたので、湯河原の施策にも注目してきました。富田町長時代に、ハードもソフトも含めていくつもの事業が進められましたね。

富田：湯河原のことを大臣にも知って頂いて嬉しく思います。コロナは観光立町である湯河原にはダメージではありませんが「東京や都心部に暮らし続ける必要はない」という方々も増えてきて、湯河原は移住先として検討されるようになりました。またテレワークやワーケーションに適した宿泊施設やスペースも増えてきました。「万葉公園湯河原惣湯」は1階にカフェや観光ステーションを、2階に観光協会、旅館協同組合など事務所とコワーキングスペース、会議室を作りました。公園全体ではもちろんFree Wi-Fiがご利用いただけます。

かれん：私が伺った時にはちょうど町外からのお客さまが集まって会議をされていました。観光客のお客さま層が、ご家族連れから、おひとりさま、会社関係、連泊、とさまざまに広がっているのを感じます。観光産業はすその広い産業です。農産物も旅館などで地産地消として活用されますし、お土産は地元の商店で買っていただけます。観光地のイメージアップに向けて観光庁のメニューも活用しながら

ら改修やリノベーションも進められているところです。万葉公園は公募設置管理制度(Park-PFI)として整備しましたね。実は私はデジタル大臣と同時にPPP/PFIの担当大臣でもあったのです。湯河原は私が大臣に就任する前から既に「全国の手本となるモデル」とされていました。

富田：民間の活力を使うことも大事だと思っています。税金を上げるためにも、町内の産業を活性化させ、経済を回すことを重視してきました。子育て支援や高齢者福祉を拡充させるためにも、原資となる予算、歳入が必要です。町民の力強い未来のために「稼げる町」であり続ける様努力していきます。

かれん：「見えるアトリエ」にも思い入れがあります。地方創生の拠点として町長と共に実現させていただきました。町立湯河原美術館に「平松礼二見えるアトリエ」をオープン、ミュージアムカフェも併設されました。町長も同席下さいましたが、フランス大使館で平松画伯はフランスから芸術文化勲章シュバリエを受けられました。私が敬愛する「銀河鉄道999」の松本零士先生もシュバリエを受賞されていますが、芸術文化の分野で日本を代表される方々に送られている賞です。フランスで尊敬されている日本人が湯河原におられるというのは誇りですね。また湯河原町町村合併60周年の記念事業として「狂言の宴とプロジェクトマッピングとの融合」も開催されたのを覚えています。伝統・歴史・文化と梅の宴など自然環境の融合は温泉と共に湯河原の魅力だと思います。町長は「初心を忘れず愚直に町政運営に努めている」と日頃よりおっしゃっています。「初心忘るべからず」という表現には「経験を積めば『型』や『形』が